

ムリンピックにいがた」を医学部キャンパスで開催し、医学生が臨床スキルを競い合った。

Dundee大学のRonald Harden教授と米国連携医学教育協会（LCME）のDan Hunt局長が招聘講演を行い、両氏が参加したシンポジウム「行動科学」は、医学教育分野別評価で重視されていることもあり大盛況であった。日韓医学教育学会交流招請講演では、Inha大学のJong Hoon Kim教授が韓国の医師国家試験臨床能力試験を紹介した。名誉会長講演では、日野原重明先生が熱意あふれる「だから医学は面白い」と題する講演を行った。

大会長講演では、牛木辰男医学部長がわが国80

医学部で初めて医学教育分野別評価トライアルを受審した医学教育を紹介し、奈良信雄東京医科歯科大学特命教授が医学教育分野別評価の進捗状況を基調講演で報告した。蒲原宏先生から「新潟の医学史」について長年の調査研究に基づく特別講演があった。本大会で、「卒前教育・初期臨床研修終了時点の医学教育コンピテンス」が初公開された。一般演題で英語発表があり、グローバル化時代にふさわしい学会となった。また、新潟県と新潟市から支援を受けたことは地方都市として特徴的であった。抄録（演題・著者）についてすべて英文表記を併記したこと、ミニプログラムを配布したことなど、新しい試みを行った。

3. 第48回日本医学教育学会大会

河田 了（大阪医科大学医学教育センター長）

第48回日本医学教育学会大会は2016年7月29日（金）、30日（土）、大阪医科大学が主宰校となり大槻勝紀大会長（大阪医科大学学長）のもとに開催された。同大学医学部および看護学部の講堂を中心に、7つの会場とポスター会場を設けた。一般演題は、口演が296題、示説が115題、インターナショナルセッションが42題、学生ポスターセッションが35題、総数488題という多数の登録があった。猛暑にもかかわらず1,109名（一般参加者926名、研修医6名、学生・その他177名）という多数のご参加をいただいた。海外からの参加者も37名を数えた。

基調テーマは「医学教育のグローバルスタンダードにおける大学の独自性（Originality of each university in meeting the global standard of medical education）」とした。多くの大学が国際認証や分野別評価の対応に追われ、医学教育が深化していくなかで、大学の独自性を発揮することが生き残りに必要と考えられることからこのようなテーマを選択した。

海外招聘講演は、世界医学教育連盟の会長であるDavid Gordon先生が、“Preserve the good : maintaining quality at a time of growth in medical school numbers”と題して、またスタンフォード大学のKelley Skeff先生が“Medical teaching: a complex world of opportunity”と題して講演された。名誉会長講演では日野原重明先生より、「ふたたびオスラー先生に学ぶ」と題して、1時間余りにもおよぶご講演をいただいた。基調講演では、愛媛大学の小林直人先生に「原点に還る～医学教育者に求められること～」と題して講演をいただいた。また特別講演として、福島県立医科大学の石川和信先生に「教育リソースの有効活用と総合的臨床実践力の評価」と題して講演をいただいた。

学会の各委員会から提供いただいたテーマを中心に、15のシンポジウム、4つのパネルディスカッションを行った。非常にタイムリーかつ興味深い演題が多く、各会場とも盛況であった。その他、企業協賛による6つのランチョンセミナー、